

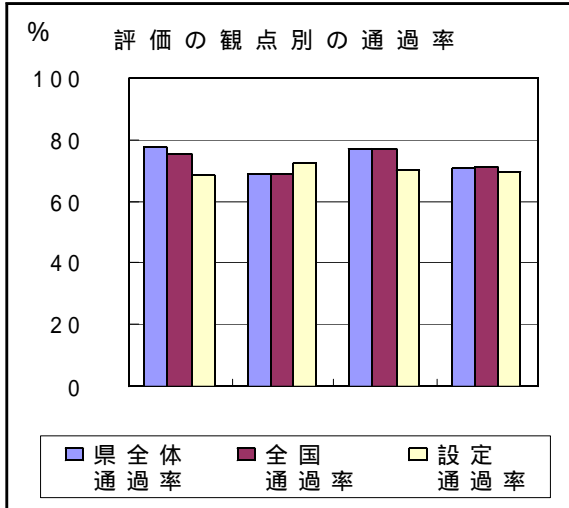
社会科

<目次>

平成16年度学習状況調査結果から	29
第1章 「社会的な思考・判断力」を高める授業づくり	30
1 「社会的な思考・判断力」とは	
2 社会科授業の再転換を	
3 「社会的な思考・判断力」を高めるために必要なことは	
4 授業づくりのポイント	
5 ステップアップ型，リプレイス型とは	
6 討論型授業の可能性	
第2章 ステップアップ型の授業実践	36
1 授業の実際	
第5学年 「わたしたちの暮らしと情報」 - 報道と人権について考えよう -	
2 学習指導過程において工夫・改善した点	
3 社会的な思考・判断力の高まりの評価	
第3章 リプレイス型の授業実践	45
1 授業の実際	
第6学年 「黒船と開国」 - 開国すべきか，それとも... -	
2 学習指導過程において工夫・改善した点	
3 社会的な思考・判断力の高まりの評価	
第4章 討論型授業の必要性	54

平成16年度学習状況調査の結果から 「社会的な思考・判断力」について

小学校社会の全体的な通過率は、全国通過率とほぼ同じでした。しかし、県全体の通過率を観点別に比較して見ると、「社会的な思考・判断力」の通過率が低くなっています。例えば、第6学年では次のようになっています。



関心・意欲・態度 思考・判断
技能・表現 知識・理解
図1 第6学年観点別の通過率

< 考 察 >

第6学年では、図1のように「社会的な事象への関心・意欲・態度」と「観察・資料活用の技能・表現」において、いずれも約77%と高い通過率となっている。しかし、「社会的な思考・判断」においては、70%に達していない。

例えば、思考・判断力を見る問題として、参勤交代の目的についての問いがあるが、正答率は48.8%と低く、全国通過率を9.3ポイントも下回っている。

これらのことから、「資料を基に知識と知識を関連付けて考えたり判断したりすること」の指導に課題があると思われる。

課題：「社会的な思考・判断」の通過率が、他の3観点に比べて低い

研究の内容を
次の点に絞ってみました。

資料に基づいて主張を形成し、それを吟味・評価する場を設定して、「思考・判断力」を高める授業づくりを図ろう

< 授業実践 >

第5学年 単元「わたしたちの暮らしと情報」- 報道と人権について考えよう -

学習過程をブレインストーミング段階 検討段階 討論・意思決定段階の3つの段階に分け、「思考・判断」する場のレベルを上げていきます。 **(ステップアップ型)**

第6学年 単元「黒船と開国」- 開国すべきか、それとも..... -

主張や反論を行うA, Bの立場と、そのやり取りを聞きながら吟味・評価する第三者の立場Cに分かれ、討論ごとに立場を入れ替わりながら学習していきます。 **(リプレイス型)**

討論を取り入れた授業ですが、一般的なディベートとは異なります。子どもの実態に即し、資料を基に思考したり主張を吟味・評価したりする場の設定を工夫しています。

第1章 「社会的な思考・判断力」を高める授業づくり

1 「社会的な思考・判断力」とは

社会科では、多種多様な資料を取り扱います。資料と社会的事象の理解とは切り離せないセットの関係にあることは言うまでもありません。そこで、写真や絵、グラフ、図表まで含めた資料の意味を読み取って解釈する力が必要となります。さらに、他者とともに自分の考えを検討したり評価したりする力が必要となります。言い換えると、知識と知識を関連付けて考える力です。授業レベルでは、社会的事象について資料に基づき自分なりに思考・判断し、主張をつくる力だと考えます。

2 社会科授業の再転換を

学習指導要領改訂の趣旨に従い、社会科の授業スタイルは大きく変わりました。多くの知識を教え込むことになりがちだった社会科授業から、調べ学習を中心とした自ら学ぶ力を育む社会科授業への転換が果たされてきました。具体的に言えば、社会的事象とのかかわりの中から自ら問題を発見し、その内容や背景について様々な手段で調べ、まとめて発表するといった形式の授業が多く行われるようになったということです。

しかし、図2に示すように、知識獲得の方法は変化したものの、学習の主体性や自主性の度合いが違っただけで、目指すゴールはほとんど変わっていないように思われます。つまり、どちらも「知識・理解」をゴールに設定した授業構成のままなのです。知識が必要であることは言うまでもありませんが、子どもたちは道具としての知識は手に入れても、それを使いこなせていない状態にあると言えます。これでは、先に述べたような「社会的な思考・判断力」は身に付くはずはありません。「知識を基に考え、表現すること」をゴールとする授業に再転換しなければならないのです。

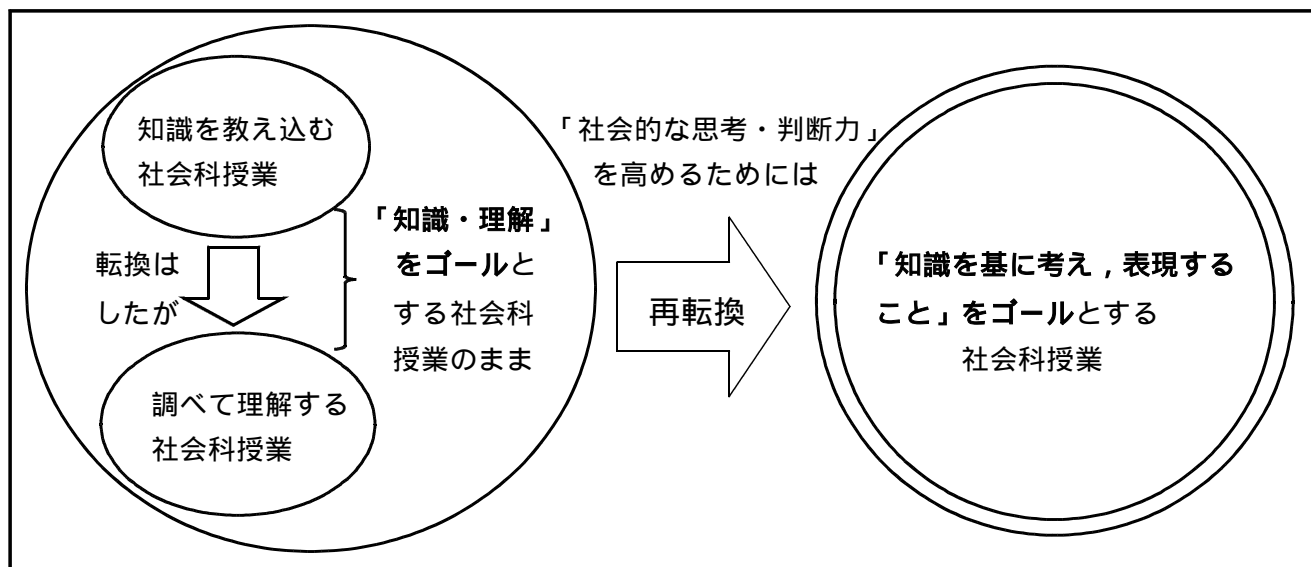


図2 社会科授業の再転換

3 「社会的な思考・判断力」を高めるために必要なことは

資料をどのように読むのか、知識と知識をどのように関連付けて考えるのか、自他の考えをどのように検討・評価するのか、というような力は自然に身に付くものではありません。特に、小学校段階においては、教師が長期的展望に立ち意図的に学習させることによってこそ、身に付けさせることが可能となります。そのためには、授業の中で、資料を基に自分なりに考え、他者とともに検討・評価する場を設定し、繰り返し経験させる必要があります。

思考力は、繰り返し練り上げることによって育つ能力です。そのために、授業の中に、子どもが多様な考えを出し合い、事実とそれに基づく考えの正当性や妥当性を吟味・検討する場を設定し、そこで考えを練り上げる経験を積ませることが肝要です。

図3に示す円錐全体は、1単元あるいは1時間の授業を表しています。どの段階の「思考」まで行うかは、授業のねらいによって異なりますが、基本は「事実的な思考」です。

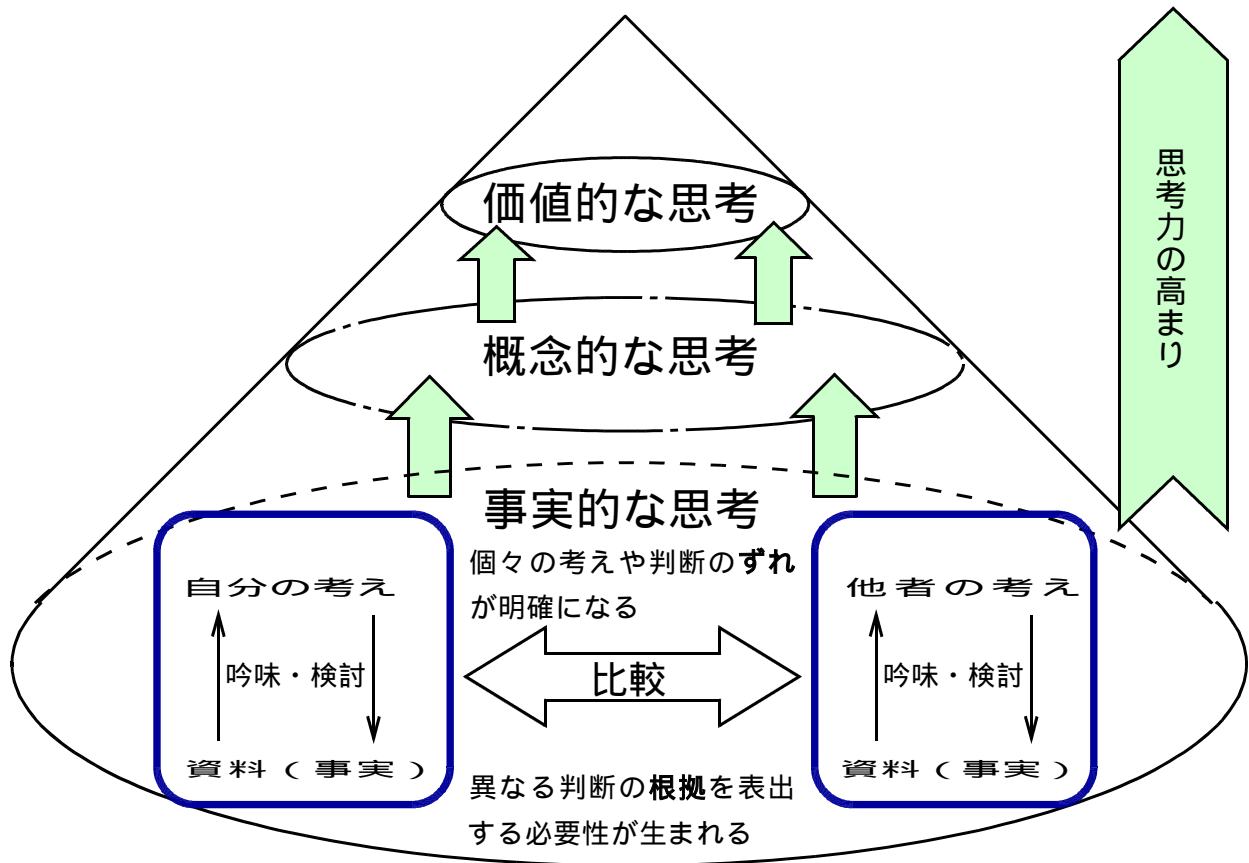


図3 資料に基づいて考えを吟味・検討する場と思考力の関係

4 授業づくりのポイント

(1) 資料の与え方を工夫する

ある事柄について、子どもが自分の力で情報を収集・選択することはとても大切なことです。しかし、その事柄が多様な要素を含んでいる場合などは、必要な情報を収集するのに膨大な時間と労力がかかります。目的は、資料を収集することにあるのではなく、資料を使って考えることにあるのですから、資料収集を子どもに任せることは効率的とは言えません。

そこで、教師が事前に収集・作成しておいた資料や授業の中で取り扱った資料をリストアップした形で子どもに与え、その中から選んで使わせます。意図的に資料を与えることで、時間的なことをクリアできるだけでなく、思考を広げさせていくことも期待できて、非常に有効です。

(2) 自分なりの考え(主張)をもたせるワークシートを工夫する

子どもは、資料をどのように読み取って、何をどう関連付けて考えればよいのか、特に学習の初期の段階では分かっていません。その原因として次のようなことが考えられます。

ア 資料を読むという経験が不足している。

イ 資料を読む際の視点が不明瞭である。

ウ 資料と資料以外の事柄とを関連付けて考えることが難しい。

エ 資料を基に考えたことを、どう表現したらいいのかわからない。

そこで、資料から読み取ったことを基に自分でじっくり考え、表現する（主張をつくる）場を設定することが要件となります。その際には、子どもの実態と思考過程に合ったワークシートを工夫することによって、資料の読み取り方や事象と事象の関連付け方などを徐々に身に付けさせていくのです。

もう少し具体的に説明します。基本的な考え方は、整った主張をつくることに慣れていないという子どもの実態を考慮し、ワークシートの「ナビゲーション」に従って書き進めながら主張をつくらせていくということです。

まず、自分の立場（結論）を述べます。論題に対して、いずれかの立場を決定して主張を展開していきます。次に、理由を述べます。なぜそれをメリットあるいはデメリットと考えるのか、根拠を示さなければなりません。その際、資料（事実）を引用して、そこから読み取ったことを基に理由付けを行います。そして最後に、まとめとして再度結論を述べます。

このように、主張をつくる側にも聞き手側にとっても、手順が明確で分かりやすいワークシートを活用することは非常に有効であると考えます。

詳しくは、第2章、第3章の実践例を参照してください。

(3) 他者とともに考え（主張）を検討・評価する場を位置付けた学習過程

(2)のようにして、ある事柄についての主張ができたなら、次は、それが資料（事実）に基づいた妥当なものになっているかどうか検討することが必要です。このことは、資料を正しく読み取っているか、どのように解釈しているかを吟味することになります。また、自分とは別の見方や考え方を知り、思考・判断力を高めることにもつながると考えます。

一般社会では、解決すべきある社会的事象（問題）に関して、Aという立場の人、Aとは対立する立場Bの人、第三者的な立場Cの人が存在する場合、よりよい解決を目指してこの三者の間で何度も議論が行われます。

同じようなことを小学校レベルに合わせてシミュレートし、授業の中で経験させることは、社会的な思考・判断力を育成すると同時に、将来的に必要とされる資質を保証することにもなると言えます。このような目的で、単元構成・授業構成を工夫した実践例として、2つのモデルを第2章、第3章で紹介しますが、どちらも学習過程の中に含まれる主な要素は図4のようになっています。

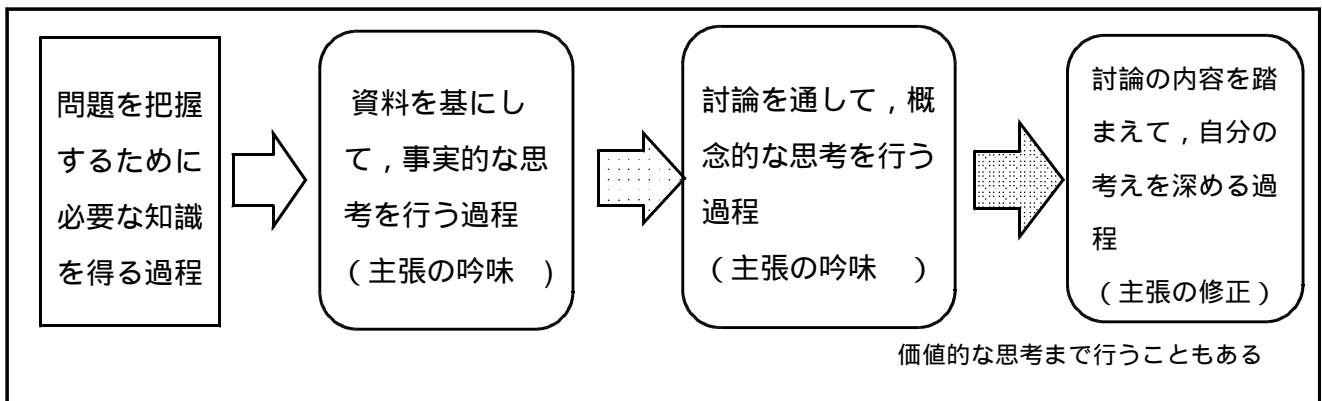


図4 学習過程に含まれる4つの要素

5 ステップアップ型，リプレイス型とは

学習問題の内容と設定の仕方によって，使い分けます。

(1) ステップアップ（昇段）型

学習問題の絞り込み具合と子どもの思考力を，段階的に上げていく単元構成になります。

第1段階は，ブレインストーミング段階です。ここでは，「アイデアの抽出」が目的となります。子どもが現時点でもっている知識や経験を基に，ある社会的事象について多様な考えを自由に出させるようにします。そして，出てきた考えを全体でやり取りしながら大まかに分類し，子どもにいくつかの観点をもたせます。

第2段階は，検討段階です。ここでは，「学習問題の把握」が目的となります。取り扱っている社会的事象に関する新たな情報を与え，第1段階で得た観点と併せて考えさせます。そして，1つの事象に複数の方向から光を当てることによって，陰と陽の部分を照らし出し，学習問題を設定します。

第3段階は，討論・意思決定段階です。ここでは，「思考・判断力を高めること」が目的となります。設定した学習問題について主張を作成させ，データを基にして主張の正当性を吟味しながら討論を行います。そして，討論の内容を踏まえ，違う立場の考えも考慮に入れた上で，よりよい問題解決に向けて主張の修正を行います。

このようにステップアップ型においては，初めは内容を広くとらえ，次第に焦点化していく過程で，学習問題自体も深化させていくことが可能です。

(2) リプレイス（入れ替え）型

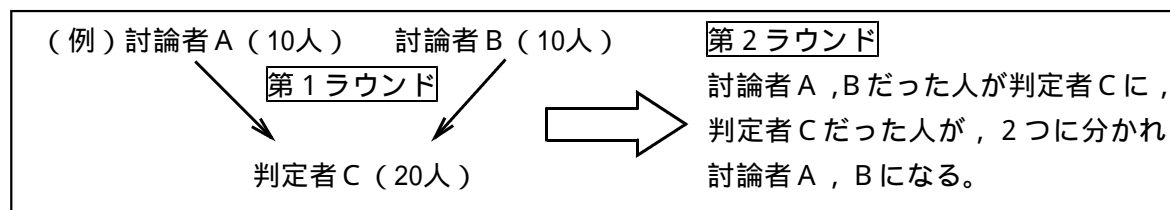
主張や反論を行うA，Bの立場と，そのやり取りを聴きながら吟味・評価する第三者の立場Cを取り入れ，討論ごとに立場を入れ替わりながら，データを基に考える力を高めていきます。

まず初めの段階で，教科書や資料集，教師の自作資料を使って，ある社会的事象に関する知識を一定量獲得させます。それから，学習問題を討論のテーマ形式で設定します。

次に，討論のテーマに対する自分の立場を決定させ，主張を作成させます。その際，テーマに含まれる内容を分けて提示することにより，子どもの思考の方向性を示すことが重要です。内容を広くとらえ過ぎると，主張にばらつきが起こり，結果として討論がかみ合わず深まりのないものになってしまうからです。

討論の段階では，立場A，Bに加えて判定者Cの3つの立場で参加します。子どもにとって討論の内容が明確なものになるように，争点となる事柄を分けて提示し，区切って討論を行います。その際，ラウンドごとに立場の入れ替えを行い，討論者と判定者の両方の役割を経験させます。これは，第三者の立場に立ち，結論とデータの結び付きを吟味したり，討論全体を客観的に振り返ったりすることによって，思考力を高めることをねらいとしています。

そして，最後に，主張を再修正させます。ここでは，討論の内容を踏まえ，判定者Cのコメントも考慮に入れながら，自分なりの考えを書かせます。



2つのタイプは，どちらも社会的事象（知識）をどのように結び付けて考えればよいのか，という「思考の仕方」を学ぶのに有効なものであると思います。

6 討論型授業の可能性

2つのスタイルの特徴を説明しましたが、このような授業を3年生から6年生までのすべての単元で行うことはかなり難しいことだと思います。そこで、各学年において比較的实践しやすいと考えられる単元例を、学期に1つの割合で以下に挙げることにします。(単元配列は、日本文教出版の教科書を参考にしています。)

単元によって時数配分が多少異なりますが、8～10時間が平均的です。

<学習の流れ>

必要な知識を得て、学習問題をつかむ段階 … 3時間
 自分の立場を決め、資料を基に主張を作成する段階… 2時間
 討論によって、思考・判断力を練り上げる段階 … 2時間
 討論を踏まえて、主張を修正する段階 … 1時間

【step】…ステップアップ型，【replace】…リプレイス型

学年	学期	教科書の単元名	討論のテーマ例と推奨する討論の型
3 ・ 4 学 年 上 巻	1	市のように、学校のまわりと どちがうの	「学校のまわりに、1つたてものをたてる としたら?!」 【step】
	2	どこで買うの、そのわけはなん だろう	「あなたは、せん門店派? スーパーマー ケット派?」 【replace】
	3	古い道具をつかっていたころの くらし、いまとどちがうの	「おばあちゃんが子どものころにタイムス リップ!何を持って行く?」 【step】
第 3 ・ 4 学 年 下 巻	1	安全なくらしを守る仕事	「けいさつ官と消防士、どちらの人数をふ やすべきか」 【replace】
	2	そのごみ、どうするの	「市は、ごみ処理を有料化するべきで ある」 【step】
	3	県のように、どうなっている の	「佐賀県は、大企業のゆうちを進めるべき である」 【replace】
第 5 学 年	1	日本の米づくりは、どうなっ ているの	「日本は、米の減反政策をやめるべきで ある」 【replace】
	2	情報は、どのように生かされて いるの	「視聴者のニーズとプライバシーの保護、 どっちを優先するべきか」 【step】
	3	くらしの環境は、どのように守 られているの	「日本は、家庭で使用できる石油量に制限 を加えるべきである」 【replace】

第6学年では、歴史的分野の学習が中心となります。ここでは、その時代を形成する上で重要な問題となるもの、換言すれば、ある政策・制度を行うことによって、それ以前の社会とそれ以後の社会とで大きな変化をもたらすことになる、国づくりに大きくかかわる問題を取り上げています。

第6学年においては、すべてリブレイス型の討論を取り入れた授業を推奨します。取り扱う内容が歴史的事象中心となるので、ステップアップ型のように、子どもの知識や経験を基にブレインストーミングを行って、学習問題を設定していくことは難しいからです。

学年	学期	単元名	問題（討論テーマ）例	概要
第 6 学 年	1	米づくりは、世の中をどう変えたの	「米づくりによって、人々の生活はよくなったか」	食糧問題の解決策としての稲作制度導入は、どれほど効果があったのかについて討論し、その結果に基づいて稲作制度に関する歴史作文を作成する。
		国の政治のしくみは、どう整えられたの	「大仏づくりによって、国がまとまったか」	鎮護・統一のための政策として、大仏づくりはどれほど効果があったのかについて討論し、その結果に基づいて、天皇中心の国づくりに関する歴史作文を作成する。
		武士の政治は、どう進められたの	「ご恩・奉公によって、幕府の政治は成功したか」	ご恩・奉公という制度が幕府の政治にとってどれほど効果があったのかについて討論し、その結果に基づいて、武士による政治の仕組みに関する歴史作文を作成する。
	2	「徳川の世」は、どんな世の中だったの	「鎖国によって、日本国内は安定したか」	武士社会を維持存続させていくために、キリスト教禁止と鎖国制度はどれほど効果があったのかについて討論し、その結果に基づいて、鎖国制度に関する歴史作文を作成する。
		日本は、世界へどうあゆみ出したの	「明治維新によって、欧米並みの国に生まれ変わったか」	新政府が行った明治維新と呼ばれる改革が、新しい国づくりにどれほど効果があったのかについて討論し、その結果に基づいて、国家優先か国民優先かという視点から、国づくりに関する主張を形成する。
		平和な世界をめざし、どうあゆんでいるの	「高度経済成長によって、日本はよくなったか」	高度経済成長政策の効果について討論を行い、さらに、これまでの歴史単元学習を生かして、近未来社会の在り方について主張を形成する。
	3	政治って何だろう	「選挙制度に罰金制を導入すべきか」	選挙の投票率が低いという現状を踏まえ、選挙制度に罰金制を導入することの効果について討論を行う。民主主義社会に生きる市民としての権利と義務・責任という視点から、社会形成に関する主張を作成する。

第2章 ステップアップ型の授業実践

1 授業の実際

(1) 第5学年 単元名 「わたしたちの暮らしと情報」 - 報道と人権について考えよう -

(2) 教材化と指導に当たって

情報社会と言われる現代,私たちの日常は,メディアの存在を抜きにして考えることはできない。インターネットの発達や携帯電話の普及によって,国内はもとより,国外で起こった出来事さえ瞬時に伝えられ,私たちは,簡単にたくさんの情報を手に入れることができる。しかし,この情報社会は,便利な反面,様々な問題も引き起こしている。

その中でも,最近特に問題とされているものの一つに,報道と人権にかかわる問題がある。私たちは,メディアから伝わる情報を受動的に受け取り,さらには,メディアからの情報が正しいものであると無批判に信じてしまいがちである。このような状況の中,メディアの行き過ぎた報道が,一般市民に対して,報道被害を引き起こしているという現実がある。

そこで,本単元では,視聴者のニーズとそれに応えようとする報道の在り方を取り上げることで,情報の送り手としての報道側の表現の自由と,受け手としての一般市民側の守られるべき人権について考えさせる。そして,そのことを通して,報道の自由と人権についてのバランスや,報道を取り巻く様々な価値について考えさせ,議論させたい。

指導に当たっては,まず,芸能ニュースを取り上げ,報道には,それにかかわる様々な立場があり,各立場でのニーズがあることに気付かせる。次に,視聴者のニーズに応えた番組作りの仕組みや工夫について調べ,それらを出し合わせる中で,メディアの影響力や私たちの生活にもたらされるメリット・デメリットに気付かせる。その後,学習したことを基に「芸能ニュース」と「犯罪ニュース」の2つの内容で,「視聴者のニーズ」と「プライバシーの保護」は,どちらに重きをおいて報道すべきかを考えさせるために,討論を行う。そのことを通して,「視聴者のニーズ」と「プライバシーの保護」という対極的な立場の観点から報道と人権にかかわる問題について考えさせていきたい。このように,報道の自由と人権の尊重,どちらに重きを置くべきかという,互いに切り離せない状態で存在する価値に気付かせながら,私たちの暮らしと情報の在り方について,考えを深めさせることは,これからの社会を形成していく態度や能力をはぐくんでいくために重要であると考える。

実際の授業は,ステップアップ型の単元構成で行う。番組制作の工夫を調べる過程での思考,メディアの影響力と視聴者に与えるメリット・デメリットについて気付く過程での思考,というように,学習問題を段階的に絞り込むことで子どもの思考を高めていく単元構成にする必要がある。

(3) 単元の目標

報道の在り方について関心をもち,新聞記事やニュース報道,資料集などを基に進んで調べようとする。
(関心・意欲・態度)

報道の自由と人権の尊重という2つの観点を考慮しながら,報道の在り方について意思決定をすることができる。
(社会的思考・判断)

報道について調べたことを基に,これからの報道の在り方や情報の受け手としての在り方について,根拠を明らかにして自分の考えを表現することができる。
(技能・表現)

報道にかかわる問題について理解するとともに,報道の意義や働き,その仕事に従事している人の努力や工夫について理解することができる。
(知識・理解)

(4) 単元計画 (全11時間)

過程	時	主な学習活動	教師の働きかけ
ブ レ ー ン ス ト ー ミ ン グ 段 階	1	<p>芸能ニュースを見て，報道にかかわる様々な立場があることに気付く。</p> <p>受け手の「知りたい」というニーズと送り手の「知らせたい」「視聴率アップ」という観点によって情報が作られていることに気付く。</p>	<p>報道陣と芸能人，視聴者の立場に立って感想をもたせることで，報道には様々な立場の人がかかわっていることに気付かせる。</p> <p>情報伝達的手段についてブレンストーミングを行い，受け手と送り手との関係や，企業としての送り手が視聴率に重きを置いていることに目を向けさせ，次時の課題へつなげる。</p>
	3	<p>視聴率アップ！そのためにテレビ局がしていることは？</p>	
	1	<p>視聴者のニーズに応えた番組作りの仕組みや工夫について調べる。</p> <p>【調べる観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早く，正確に，分かりやすく情報を伝えるための工夫（番組作成の流れなども含めて） ・ 情報を伝える際，気を付けていること 	<p>前時までの学習を振り返らせ，視聴者のニーズについて押さえる。</p> <p>教科書や資料集などを中心に調べ学習を進めさせる。他にも必要な資料は教師側で準備しておき，子どもが必要に応じ選択して活用できるようにする。</p> <p>メディアの影響力についても触れ，次時へつなげる。</p>
検 討 段 階	1	<p>調べたことを出し合い，視聴者のニーズに応えた番組作りの仕組みや工夫について理解する。</p>	<p>調べたことを出し合わせる中で，メディアの影響力と，私たちの生活にもたらされるメリット・デメリットを明らかにする。</p>
	1	<p>バラエティ番組をきっかけにして，受け手のニーズのみに目を向けた情報提供に問題点はないのか考える。</p>	<p>個人をネタにした番組を基に，「報道の自由」にかかわる「視聴者のニーズ」と「人権の尊重」にかかわる「プライバシーの保護」という2つの対立する観点があることを示唆する。</p>
討 論 ・ 本 時	<p>視聴者のニーズとプライバシーの保護について考えよう！</p>		
	2	<p>芸能ニュースと犯罪ニュースの内容で，それぞれ「視聴者のニーズ」と「プライバシーの保護」の観点から，主張を作成する。</p>	<p>子どもを，芸能ニュースと犯罪ニュース2グループに分け，2つの観点を考慮させながら，データを基に主張を作成させる。</p>
	1	<p>2つの内容で，「視聴者のニーズ」と「プライバシーの保護」という観点から，討論を行う。</p> <p>【芸能ニュース】</p> <p>「視聴者のニーズ」と「プライバシーの保護」</p>	<p>ニュースの内容ごとにお互いの主張を整理することで，2つの観点を明確にさせながら，討論を進めさせる。</p> <p>討論の後，考慮した2つの観点を基に，どちらに重きを置くべきか，自分以外の</p>

意思決定段階		【犯罪ニュース】 「プライバシーの保護」と「視聴者のニーズ」	立場も踏まえて学習したことを振り返らせ、次時の活動につなげる。
	1	討論を振り返って、資料を基に主張を見直してみよう！！	
		討論を振り返り、各立場での主張を資料と照らし合わせて、見直す。	前時を振り返らせ、資料が主張の根拠となっているかについて吟味させる。
	1	今までの学習を振り返り、情報の受け手として大切なことを考える。	これまでの学習を基に、報道の自由と人権の尊重という2つの側面を考慮させ、情報の受け手として大切なことを自分の考えとしてまとめさせる。

(5) 本時の計画 (9 / 11)

本時の目標

「報道の自由」「人権の尊重」という2つの観点を考慮しながら、討論を行い、報道と人権について、自分の考えをもつことができる。 (社会的な思考・判断)

本時の展開

学習活動	教師の働きかけと評価
1 前時までの学習内容を振り返る。	掲示物やワークシートを基に前時までの学習を想起させる。
2 本時のめあてを確認する。	2つの内容で討論を行うこと、「視聴者のニーズ」と「プライバシーの保護」という2つの観点で主張を行うことを確認する。
視聴者のニーズとプライバシーの保護について考えよう！	
3 「芸能ニュース」「犯罪ニュース」の2つの内容で討論を行う。 [討論の順序] 主張 質問・意見 反論 再主張 【芸能ニュース】 《予想される主張》 * 視聴者のニーズに重きを置くと... 多様な情報を提供できる。 メリット * プライバシーの保護に重きを置くと... 報道の自由が損なわれる。 デメリット	論点を明らかにして討論ができるよう、初めに、「芸能ニュース」に関して討論を行わせ、次に「犯罪ニュース」に関して討論を行わせる。その際、「視聴者のニーズ」と「プライバシーの保護」という観点を考慮させる。 それぞれの主張の後、内容ごとに質問や意見を出し合わせ、反論や再主張への参考にさせるとともに、考えの深まりにつなげていきたい。 「視聴者のニーズ」と「プライバシーの

だから、視聴者のニーズに重きを置くべきである。

【犯罪ニュース】

《予想される主張》

* プライバシーの保護に重きを置くと...

被害者や加害者の家族に関する事など、知らせなくてもいい情報は守られる。

メリット

* 視聴者のニーズに重きをおくと...

時としてプライバシーが守られないことがある。デメリット

だから、プライバシーの保護に重きを置くべきである。

4 討論を振り返り、自分の立場を離れて、報道の在り方について、自分の考えを書く。

5 次時の学習について知る。

保護」という観点は、どちらも大切なものでありながら、報道の内容によって重きが置かれる方が違ってくことを示唆する。

「視聴者のニーズ」と「プライバシーの保護」という2つの観点を考慮させながら、報道の在り方について、自分以外の立場の主張も踏まえて振り返らせ、次時の活動につなげる。

主張の際に提示された資料を見直すことで、主張を吟味していくことを知らせる。

社会的な思考・判断
報道の在り方について、複数の観点を考慮して、自分の考えをもつことができる。
(評価方法：ワークシート・発言)

2 学習指導過程において工夫・改善した点

(1) 資料の与え方

討論の際に、参考とさせる資料は、主に、教科書・資料集が中心です。しかし、本単元のように、教科書の教材と異なる教材を用い、学習を行う場合は、あらかじめ、教師側でインターネットや図書資料、新聞記事などから、子どもが主張作成の際に使うことができそうな資料を選択しておき、データ集という形で提示しました。子どもたちには、そのデータ集の中から自分たちの主張の根拠となりそうなデータを選んで使うよう声を掛けました。

一般に、調べ学習というと子どもたちがパソコン室や図書室で自由に情報収集を行うというイメージがありますが、膨大な量の情報の中から、自分たちが必要とする情報を的確に選択することは非常に難しく、時間の浪費につながっているという現実は否めません。また、情報の内容を理解できず、ただ書き写す作業に終始してしまうこともよくあることです。

そこで、次ページ資料1のように、教師が子ども向けの表現に作りかえたデータを与え、子どもたちにその中から自分が必要な情報を選択させることで、従来の問題点を改善できると考えました。

その際、次の3点に留意して資料を作成しました。

ア 難解な語句は、分かりやすい言葉に書き換える。

イ 子どもの実態を踏まえて、加除修正が必要な部分は補って作成する。

ウ 予想される主張の内容に関する資料ごとに、一まとまりにして、分りやすく並べて提示する。

資料1 子どもに与えたデータ(一部)

データ1 犯罪ニュース報道はみんなのために

犯罪ニュースを報道する目的とは

1. 犯罪の情報を提供して市民に注意を呼びかけるため
2. 事件を解決し、再発を防ぐため
3. 報道によって警察を監視して、えん罪を防ぎ、市民が安心できる社会をつくり、維持するため

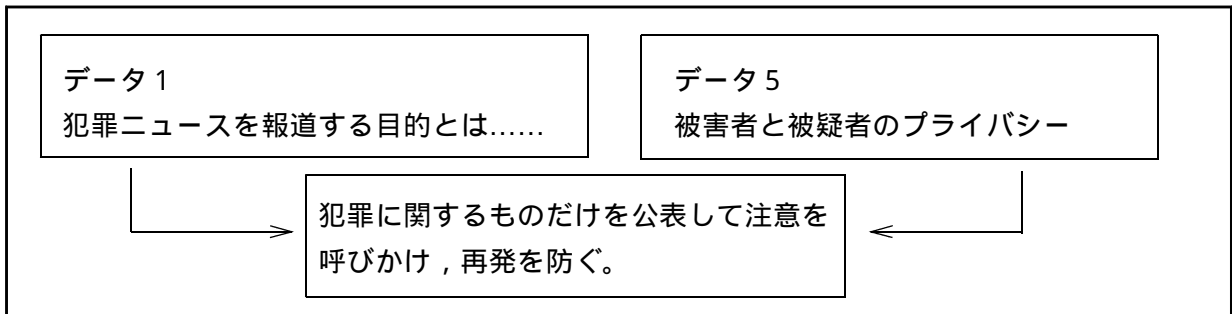
(2) 資料の読み取らせ方

1つの資料から、1つのことを読み取らせることはもちろん大切ですが、今回は2つの資料から1つのことを推測して読み取らせるために、1つの資料のみで、自分が作成した主張が言えるのか、ということ吟味させました。

その結果、主張を行う段階では、1つのデータしか活用できていなかった子どもが、反論を行う際に、データ1とデータ5の2つの資料から、「犯罪に関するものだけを公表して注意を呼びかけ、再発を防ぐ」と反論することができるようになりました(資料2)。このことから、資料を活用しながら学習を進めていくことで、資料を活用する能力、そして、複数の資料から物事を考える能力に伸びが見られ、思考に深まりが見られるようになったと思われます。(思考のステップアップ)

また、討論の中で、1つの資料を2つの見方で活用していた子どもがいたことで、同じ資料でも、立場が変われば、活用の仕方が変わるということにも気付かせることができました(資料3)。

資料2 2つのデータを活用して主張を作成した例

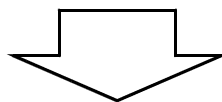


資料3 1つのデータを2つの見方で活用した例

データ7 放送倫理・番組向上機構(BPO)

「放送倫理・番組向上機構」(BPO)は、放送による言論・表現の自由を確保しながら、視聴者の基本的人権を守るためにつくられた。

*BPOは、従来から活動してきた「番組放送委員会」と「放送と人権等権利に関する委員会(BRC)」「放送と青少年に関する委員会(青少年委員会)」の3つの委員会を運営する、放送業界の機関。



この資料は、「この機構があるから、プライバシーが保護される」という主張に使われた一方で、「プライバシーが保護されなかったから、この機構ができたのではないか」という反論にも活用され、1つの資料から2つの見方ができるという思考の広がりが見られました。

(3) 自他の考えを吟味する場の設定

自分の主張と、友達の主張とを比較、検討し、自他の考えを吟味させるために、討論の場を設定しました。討論の場を設定することで、子どもたちは自分と異なる立場を知り、他者の考えに触れることができると考えます。

本単元では、その討論の場を更に2つのステージに分け、「犯罪ニュース」と「芸能ニュース」という性格の異なる報道について「プライバシーの保護」と「視聴者のニーズ」という観点で、それぞれの主張を行わせることとしました。(指導案の本時案pp.38-39参照)

討論の形式としては、それぞれの立場で主張を行かせた後、相手への質問や意見などを出し合わせてから反論を行わせました。相手の立場から反論された後に再度、主張の補強を行い、自分たちの主張を行わせ、討論のまとめとしました。

相手から反論された後の主張の補強はやや難しいと思われましたが、自分たちが一番主張したい点をもう一度主張させるということを子どもたちに伝え、再主張としました。

3 社会的な思考・判断力の高まりの評価

本研究委員会における社会的な思考・判断力の定義
社会的事象について、資料に基づき自分なりに考えて判断する力

資料4 意思決定カード

(1) 本単元における社会的な思考・判断力の評価

資料4のような意思決定カードを使って、「犯罪ニュースではプライバシーの保護と視聴者のニーズのどちらに、どのくらいの割合で重きをおくべきか」ということについて自分の考えを理由とともに記述させ、社会的な思考・判断力を評価します。

その際、資料を参考にして考えているか、また、「プライバシーの保護」と「視聴者のニーズ」という観点を考慮しているかということを下記のような基準を作成し、見取っていきます。

意思決定カード 1

名前()

() (ニュース)では、
 (視聴者のニーズ・プライバシーの保護)に重きをおくべきである。

理由

参考にしたデータなどがあつたら...

データ番号 →

データ番号 →

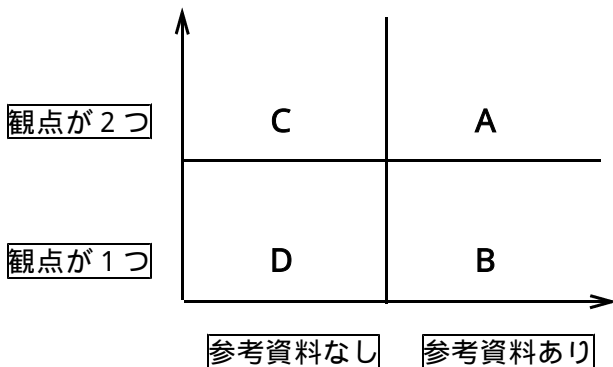


図5 主張分類の基準

* ここで言う観点とは、「プライバシーの保護」と「視聴者のニーズ」

基準1：資料に基づいて主張をつくることができるか	事実的な思考・判断
基準2：社会的事象を多面的に考えることができるか	概念的な思考・判断 (価値的)

表1 討論前後の意思決定カードを図5の基準に照らして見取った結果

評政象 \ 児童番号	1	2	3	4	5	C	7	8	9	10	11	12	A	14	15	16	17	18	19	E	21	B	D	24	25
討論前の主張	D	D	D	D	D	B	C	D	*	C	D	D	D	D	C	*	D	D	D	D	D	C	D	B	*
討論後の主張	A	A	A	A	A	A	D	A	D	A	\	B	C	B	C	D	A	\	A	A	A	A	C	A	D

(注) 討論前の*は、記述がなかったことを表す。

(2) 全体の変容について

上記の結果より、討論前は、資料を参考に行っている子どもはわずか2人でしたが、討論を経た後の意思決定では、16人に増加しています。このことから、討論に向け、自分の主張を作成していく中で、データの重要性に気付き、意思決定の際に資料を参考にしたと思われます。

また、観点の数を見ても、討論前は犯罪ニュースの報道について、2つの観点から考えることのできた子どもは4人であったのに対し、自分と異なる立場の主張に触れた討論後の意思決定では、2つの観点を考えることのできた子どもが、17人(うち3人は参考資料はなし)に増加しています。このことから、自分と異なる立場の主張に触れ、考えの幅が広がり、複数の観点で犯罪ニュースの報道について考えることができるようになったと思われます。

(3) 抽出児の変容について

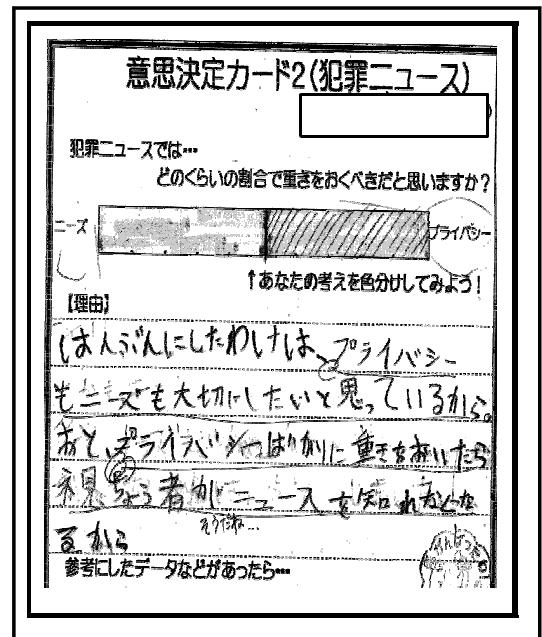
【D Cへと変容したA児】(資料5)

1回目の意思決定カードには、「視聴者が早く見たいと思っているだろうから」と、視聴者のニーズについての記述が見られますが、プライバシーの保護に関する記述は見られませんでした。また、考えのよりどころとなるデータなどはありませんでした。

一方、討論を経た後の2回目の意思決定では、プライバシーの保護と視聴者のニーズの両方の観点を考慮して、考えを書くことができています。しかし、参考とするデータは挙げることはできていません。

このことから、参考にしたデータを挙げることはできていませんが、視野の広がりは見られるようになったと言えます。

資料5 A児のワークシート



【C Aへと変容したB児について】(資料6)

1回目の意思決定カードには、視聴者のニーズとプライバシーの保護の2つの観点で書くことができています。しかし、内容を見てみると、視聴者のニーズに関しても、視聴率のことに触れているだけで、犯罪ニュースを報道する場合における、視聴者のニーズとはとらえにくいと思われます。また、考えのよりどころとなるデータは挙げていません。

討論を経た後の2回目の意思決定では、視聴者のニーズとプライバシーの保護の2つの観点を考慮し、資料を参考にして自分の考えを述べることができています。1回目の決定で、言葉としては挙げていた視聴者のニーズに関しても、「犯罪報道の目的の達成」という内容面についての理解が深まっていることが分かります。

資料6 B児のワークシート

意思決定カード2(犯罪ニュース)

犯罪ニュースでは...
どのくらいの割合で重きをおくべきだと思いますか?

ニース [] プライバシー []

↑あなたの考えを色分けしてみよう!

【理由】 プライバシーの保護に重きをおくと、プライバシーが守られる。しかし、視聴者のニーズに重きをおくと、犯罪報道の目的が報成されない。これをみて、プライバシーの保護に重きをおかないと、プライバシーがおかされて心かきずる。30%の視聴者は、プライバシーを重視しない。犯罪ニュースは、参考にしたデータなどがあつたら...

データ番号 [] 市民注意をよびかけるため!

資料7 C児のワークシート

意思決定カード2(犯罪ニュース)

犯罪ニュースでは...
どのくらいの割合で重きをおくべきだと思いますか?

ニース [] プライバシー []

↑あなたの考えを色分けしてみよう!

【理由】 プライバシーの保護の方が被害者、被害者のことを考えると、大事だとは思うけど、視聴者のニーズも考えないと、犯人がつかまえないか、同じ事件が何ともおぼろけしては、こまるからプライバシーの保護も、視聴者のニーズのわりあい重きをおいた。参考にしたデータなどがあつたら...

データ番号 [] 事件を解決し再発も「防ぐ」ためのところから。参考にしたデータに「犯罪」

【B Aへと変容したC児について】(資料7)

1回目の意思決定カードには、プライバシーの保護に関する記述しか見られませんが、資料を参考にして自分の考えを述べる事ができています。記述内容は、「被害者、被疑者の人たちが、テレビで個人情報を勝手に流されたらいやな気持ちになるから」というように、社会的な思考レベルに至っているとは言い難いのですが、プライバシーの保護という概念は理解できていると思われる。

2回目の意思決定では、討論を経たことによって、プライバシーの保護と視聴者のニーズという2つの観点で考えを書く事ができています。内容を見ても、視聴者のニーズに関する記述は、犯人逮捕や事件の再発防止など公の利益につながることに目を向けていることが分かります。

【その他、A評価の記述より】

資料8のD児の2回目の意思決定を見ると、「犯罪ニュースは楽しいやつとかそういうことじゃないから」と、報道の内容によってプライバシーの保護と視聴者のニーズのバランスを考えていることが分かります。プライバシーの保護に重きを置いた理由として、報道被害がなくなるというメリットを挙げていました。一方で、プライバシーの保護に偏りすぎると報道の自由が損なわれるというデメリットを挙げ、自分の考えを書く事ができていました。また、参考としたデータも、犯罪報道の意義を考慮して、被害者や被疑者に関して公表することを許しているという資料と、プライバシーの保護を必要以上に重く見ると報道の自由を損なう危険性があるという資料を2つ挙げていました。このことから、視聴者のニーズやプライバシーを保護する程度なども十分に考慮した上で、プライバシーの保護に重きを置くべきだと考えたことが分かります。

資料9のE児の2回目の意思決定を見ると、視聴者のニーズに重きを置いた理由として、事件の再発防止というメリットを挙げていました。しかし、プライバシーの保護も必要だと感じていた理由は、被疑者のプライバシーを考慮していたことによります。参考にしたデータを見ると、被害者や被疑者の私生活上の事実を公表することが許されるのは犯罪に関する事だけである、という資料を引用しています。このことから、被害者や被疑者については、犯罪に関する情報だけが報道されるという前提で考え、視聴者のニーズに重きを置くべきだと考えていることが分かります。

以上のようなことから、討論を経た後の2回目の意思決定においては、資料を参考にしながら、「視聴者のニーズ」と「プライバシーの保護」という2つの観点を考慮し、犯罪ニュースという報道の内

容を踏まえた上で、どちらに重きを置くべきかという自分の考えを書くことができました。

資料8 D児のワークシート

意思決定カード2(犯罪ニュース)

名前:

犯罪ニュースでは...
どのくらいの割合で重きをおくべきだと思いますか?

ニーズ プライバシー

↑あなたの考えを色分けしてみよう!

【理由】

犯罪ニュースは楽しいやるとかそういう事はないからと報道が重かたくなるのでプライバシーの保護に重きをおきました。

けれど犯罪ニュースの件は重かたくなるので報道の自由が守られるのかという点には重きをおきました。

参考にしたデータなどがあつたら...

ステップ番号 5	犯罪ニュースと報道とは関係がある事のため被害者や加害者の生活上の事案を公表するのは適切であるかそれは犯罪にかなっているから
ステップ番号 2	プライバシーの保護を必要以上に強調する事は報道の自由を奪うという恐れがある

資料9 E児のワークシート

意思決定カード2(犯罪ニュース)

名前:

犯罪ニュースでは...
どのくらいの割合で重きをおくべきだと思いますか?

ニーズ プライバシー

↑あなたの考えを色分けしてみよう!

【理由】

やはりこの事件が今とつな事件があつたからというところからニーズをおくべきだと思つた。自分もこの事件がおかたつた事を知つた。自分もこの事件がおかたつた事を知つた。

ステップ番号 5	被害者や加害者の生活上の事案を公表するのは適切であるかそれは犯罪にかなっているから
ステップ番号	

さらに思ふことがあつたら...

今回の事件はプライバシーの保護が重要であるからニーズをおくべきだと思つた。

まとめ

成果としてまず挙げられることは、報道に対する見方や考え方が学習前後で大きく変化したということです。従来のような情報の仕組みを学び、番組作り体験を行うような学習では、情報の送り手、受け手、取材を受ける側といった、それぞれの立場で報道について考えることはできても、「プライバシーの保護」や「視聴者のニーズ」という観点で報道について考えることはできません。

しかし、今回のような取組で情報の単元を学習することにより、資料を基に多面的に考える力が高まりました。また、**ステップアップ型**の単元構成を仕組み、学習問題を段階的に絞り込んでいながら思考を焦点化していくことによって、情報の利便性と危険性の両面についてより深く考えることができました。子どもたちの中には、「プライバシーの保護」や「視聴者のニーズ」を考慮しながら、報道について考える目が育ってきたように思います。

さらに、匿名報道や被害者の人権を保護していくことなどは、現在も議論されている社会問題の一つです。このように、社会で話題となっていることを教室の中でも取り上げ、5年生なりの考えをもって社会に実在する問題とかかわっていったことも、大きな成果として挙げられます。

一方、課題として挙げられることは、5年生の発達段階と興味に合った教材の選定です。現在の社会の中で、タイムリーな問題であればあるほど、教材として適しているか、どのように教材化していくかということが課題になってくると考えられます。

第3章 リプレイス型の授業実践

1 授業の実際

(1) 第6学年 単元名 「黒船と開国」 - 開国すべきか、それとも... -

(2) 教材化と指導に当たって

本単元は、江戸時代末期の動乱の時代から新しい時代へと転換する様子を調べ、激動の時代に我々の先人がどのような願いをもって時代の荒波を乗り越えていったかを考えていくものである。時代の転換点となった黒船の来航を手掛かりにして、当時の日本が置かれていた状況、列強のアジア進出などを踏まえて当時の政策について議論させる。このことを通して歴史の分岐点に思考参加し、社会の在り方について調べたり考えたりする能力を育成する。

江戸時代の末期には幕府の威信は低下していた。各地で飢饉や一揆が増加し、幕府が行った改革も成果を上げることはできなかったからである。さらに、1853年には黒船が来航し、国内の混乱は一層深刻なものとなっていた。一方、中国では1840年にアヘン戦争が発生しており、欧米列強の進出にも対策を求められる深刻な事態となっていた。この時代の日本は、国内では幕政に対する不満が増大し、対外的には開国を求める諸外国の圧力にさらされ、内憂外患の事態となっていたのである。特に、開国の是非を巡っては、時の老中阿部正弘は諸大名や幕臣にペリーの国書を示して意見を求めるなど対応策について苦悩していた。子どもが当時の世の中に身を置き、時代の転換点となる黒船の来航に始まる開国の動きについて自分の考えを構築し、黒船来航という当時の社会的問題における解決策について検討し、意見を述べていくことになる。このことは、歴史的事象と現代社会とのつながりを考えたり、現在の社会における諸問題の解決や社会の在り方について考えたりしていく上で意義あることである。

指導に当たっては、まず、江戸末期の不安定な世の中の様子を理解させる。そのために、度重なる飢饉、効果が上がらない改革などを基に人々の幕政に対する不満が高まっていたことを調べさせる。また、黒船の大きさと装備を手掛かりに、欧米列強の国力の違いに気付かせたり、アヘン戦争によって半植民地化された中国の様子を調べさせたりして、日本が置かれていた状況をリアルに考えさせていく。

次に、ペリーの要求への対応に苦慮する老中阿部正弘が大名に諮問したことをとらえて、開国を迫るアメリカ大統領の親書に対してどのような対応をした方が望ましいのかを考えさせたい。すなわち、開国すべきか鎖国を続けるべきかという現実に行われた論争に子どもを思考参加させ、解決すべき問題に対する自分なりの考えを構築させ、公的な問題を自分の問題として考えていけるようにしたい。

実際の授業は、リプレイス型の単元構成で行う。まず初めに、幕末の日本国内・国外の様子について、教科書や資料集、教師の自作資料を使って調べさせ、それから、学習問題を討論のテーマ形式で設定する。討論に先立ち、テーマに対する自分の立場を決定させ、主張を作成させるが、その際、テーマに含まれる内容を分けて提示することにより、子どもの思考の方向性を示すことが重要である。主張がばらつき、深まりのない討論になってしまうのを防ぐためである。

討論の段階では、開国派A、鎖国派Bの立場と、そのやり取りを聴きながら吟味・評価する判定者Cの立場を取り入れる。結論とデータの結びつきを吟味したり、討論全体を客観的に振り返ったりすることによって、思考力を高めるねらいから、ラウンドごとに立場の入れ替えを行い、討論者と判定者の両方の役割を経験させる。

特に、本単元では、思考を深めるためにリプレイス型の単元構成で以下のような工夫を行う。

解決すべき社会的問題の内容を細分する

社会形成の資質を育成するためには、公的論争問題についての解決策について議論していくことが有効である。本単元であれば、「黒船への対応はどのようにすればよいか」といったものである。しかし、「問題」の範囲が広く、児童一人一人の問題意識の内容にズレが生じることがある。議論の中では国内情勢にかかわることと、諸外国の外圧にかかわることの両面が交錯することが予想される。そこで、黒船にかかわる問題の内容をより具体的なレベルで提示する。黒船にかかわる問題例としては、「国内情勢をいかにして安定させるか」「外圧に対してどのように対処していくか」ということを分けて考えていく。そうすることでかみ合った議論が可能になると考える。さらに、問題ごとに第三者の判断を仰ぐ。このような活動を取り入れることで、データそのものの信憑性を検討したり、データと結論との結び付きを検討したりする場を確保して議論を読み取る能力を育成していく。

学習活動の中に《自分の考えを吟味する場》を設定する。

広い視野に立ち、自分の考えを深めていくためにはデータに基づいて判断していくことが不可欠である。これまでも自分の考えを構築したり反論したりする際にはデータを効果的に使用させてきた。しかし、これまでの社会科討論学習を振り返るとき、提示された主張を慎重に検討することが十分ではなく、自分の考えや友達の考えをよりよいものへと練り上げていくという意識が十分でなかったことに気付く。すなわち討論の中で相手の不備には気付いて指摘するが、自分の不備には反論されて初めて気付くということが多かったのではないかということである。

そこで、本単元では、自他の主張を細かく検討する場を設け、それらを基に再考する過程を取り入れていく。開国か鎖国かについて判断していくが、その際に自分の主張を細かく検討する活動を取り入れていく。他者からの指摘だけではなく自己の気付きからよりよい主張を形成する学習を積み重ねることによって社会的問題に真摯に対応しようとする態度を養い、更にはデータを基に社会的問題の解決策に対応していく能力を育成していきたい。

(3) 単元の目標

幕末の世の中の様子に興味をもち、当時の社会情勢や黒船の来航が世の中に与えた影響を調べて調べる。(関心・意欲・態度)

幕末の国内の様子と諸外国のアジアへの進出の様子などを関連させて考え、当時の日本の進むべき方向性について自分の考えを述べる。(思考・判断)

江戸末期の絵画資料や統計資料から読み取れる情報を組み合わせて、幕末の状況を理解することができる。開国への動きについての自分の考えを資料を基に述べる。(資料活用)

ペリーが率いる米国艦隊の来航が大きなきっかけとなり、わが国の開国、倒幕、さらには明治維新へと進んでいったことが分かる。(知識・理解)

(4) 指導計画 (全 8 時間)

次	時配	主な学習活動	教師の働きかけと評価
第一 次	2	<p>年表を基に、幕末の世の中の動きを調べる。</p> <p>近隣諸国が欧米列強に支配されている様子を調べる。</p> <p>黒船来航時の様子を調べ、幕府の中で大きな論争があったことをつかむ。</p> <p>ペリーが持ってきた親書の内容と老中阿部正弘の苦悩を調べる。</p> <p>学習問題をつくる。</p>	<p>江戸時代末期には飢饉、反乱、一揆などがあいつぎ、不安定な世の中であったことを理解させる。</p> <p>資料をもとにアヘン戦争後の中国の様子、列強のアジア進出の様子を調べさせ、日本にも危機が迫っていたことを理解させる。</p> <p>資料を基に、幕府内部の混乱の大きさを理解させ、世の中の枠組みが変わるほど大きな事件であったことに気付かせる。</p> <p>老中という立場にありながら諸大名に是非を諮問せざるを得なかった苦しい状況を共感的に理解させる。</p> <p>当時の日本の置かれている状況に立たせて問題を設定する。</p>
<p>黒船が来た！ 開国すべきか、それとも鎖国を続けるべきか？ - 日本がとるべき道は、さあどっち？ -</p>			
第二 次	5 本時 (4/5)	<p>当時の幕閣や大名であったならば、どのような意見を述べるかを考える。</p> <p>立場を決定する。</p> <p>討論の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張の準備 ・反論の準備 ・結論とデータの結び付きの点検 <p>黒船への対応策について討論を行い、対応策ごとの影響を明らかにする。</p> <p style="text-align: right;">【討論 1】</p> <p>黒船への対応策について討論を行い、討論の内容を踏まえて、自分の考えを深める。</p> <p style="text-align: right;">【討論 2】</p>	<p>国内の不満と外圧という当時の状況を踏まえて判断させる。</p> <p>当時の状況を表す複数の資料を基に、自分の考えを述べさせる。</p> <p>開国派、鎖国派の2つの立場に機械的に決定させる。</p> <p>討論を2回行い、どちらか1回目は第三者として討論の内容を検討するようにする。</p> <p>資料を活用して自分たちの意見を補強させ、構造に気を付けて論を組み立てさせる。</p> <p>相手の議論を予想させ、反論の準備を行わせる。</p> <p>資料を適切に活用して討論を行わせる。</p> <p>自分の考えと考えを基にした資料の結び付きを再考して、自分の考えを深めさせる。</p>
第三 次	1	<p>開国についての学習をまとめ、感想の交流を行う。</p>	<p>年表や教科書記述を基に世の中の動きを調べさせ幕末から明治初期の世の中の様子をまとめさせる。</p> <p>明治維新の学習への期待をもたせる。</p>

(5) 本時の学習 (6 / 8)

本時の目標

ペリーの要求に対して、どのような対応をとればいいのかを、当時の時代背景、国際情勢、国内政治の様子を考慮して自分の考えを深めることができる。

本時の展開

学 習 活 動	教師の働きかけと評価
1 黒船来航の目的を確認する。	開国を迫る親書の内容を確認し、国内の議論が2つに分かれていたことを確認させる。
<p>黒船対策公聴会。お互いの意見を聞いて、自分の考えをレベルアップさせよう。 - 開国すべきか、鎖国を続けるべきか。日本はどうすればいいのだろうか? -</p>	
2 役割を確認して、自分の役割に応じて解決策とそこから発生するメリットを述べる。	開国派と攘夷派、第三者の役割を事前に定めておき、役割に応じて意見や反論を述べさせる。
<p>第1ラウンド 外国からの圧力にどのように対応していくのか。</p>	
<p>予想される開国派の意見 開国して進んだ文明を取り入れると、国力が増強させる。</p>	<p>どのような問題を解決していくのか、どのようなメリット・デメリットが発生するのかを明確にして述べさせる。 第三者を説得させるために、データに基づいて主張を行わせる。 板書で結論とデータを視覚的にとらえられるように工夫しておく。 主張の終了時には、議論の整理を行い、第三者に賛否の表明を行わせ、判断をさせる。</p>
<p>予想される鎖国派の意見 開国すると中国のように、植民地にされてしまう。</p>	
<p>第2ラウンド 不安定な国内情勢にどう対応していくのか。</p>	
<p>予想される開国派の意見 開国して新しい考え方を取り入れ、政治を安定させるべきだ。</p>	<p>自分たちの考えが有利な点を第三者に対してアピールさせ、自分たちに賛同してもらえるようなスピーチを行わせる。 データを確認させたり、どのような推論から結論が述べられているのかを確認させたりして、判断する際の支援を行う。 第三者には双方の主張の骨子を記録させ、我が国の将来にとってどちらの考え方が有利なのかを判断させる。</p>
<p>予想される鎖国派の意見 外国からの影響をなくして、伝統的な政治を行い、安定した世の中にしていくべきだ。</p>	

3 開国した際の影響，鎖国を続けた場合の影響をまとめ，討論を振り返る。



4 立場を離れて，黒船に対する自分の考えをまとめる。

討論で出された内容を整理し，予想された影響をまとめさせる。

開国した場合の影響と鎖国を続けた場合の影響を比較して考えさせる。

第三者役の子どもには，判断の根拠を明示させ，討論者を納得させるような説明ができるようにさせる。

討論の内容を踏まえて，当時の我が国には，どのような選択が最適であったのかを考えさせ，ワークシートに記入させる。

社会的な思考・判断

黒船に関する対応策について，双方のデータおよび主張内容を検討し，その信憑性とメリット・デメリットの大きさを判断することができる。(ワークシート)

Aへの指導：データと結論の結びつきを検討させ，主張全体を概念的な言葉でまとめさせる。

Bへの指導：データそのものの信憑性，データと結論の結びつきを検討させる。

Cへの指導：データを指摘させ，どのような結論が導き出されているのかを指摘させる。

2 学習指導過程において工夫・改善した点

本単元を実践するに当たり，子どもの社会的思考・判断力を効果的に育成していくために，リプレイス型で単元を構成し，以下の手立てをとってきました。

社会的な思考・判断についての学習問題を二分して提示する。
討論の中で使用するデータは教師が提示する。
討論の途中で，自分たちの考えを吟味する場面を設定する。
討論の優劣を判断する第三者の役割と討論者の役割を経験する。

ここでは，これらの手立ての効果について述べていきます。

(1) 社会的思考，判断についての学習問題を二分して提示したことについて

本単元の中核をなす学習問題は，

黒船がきた！開国すべきか，それとも鎖国を続けるべきか？

というものです。子どもを江戸時代の末期の黒船来航時の時点に立たせ，当時の為政者としては，開国すべきか鎖国を継続していくかを考えさせていくものです。その際に，様々な観点から調べたり意見を述べたりすることが予想されますが，その内容が拡散しすぎた場合には反論を述べるのが容易でなかったり，深く考えることができなかつたりすることも予想されます。

そこで，子どもの思考の方向性を指し示すことができるように，より具体性をもたせて課題を設定しました。次の2つです。

1 外国からの圧力にどのように対応していくのか。

2 不安定な国内情勢にどう対応していくのか。

このように方向性を示したことによって、開国した場合、鎖国を継続した場合、それぞれのメリットやデメリットを考えることが比較的容易となり、焦点をしばった討論を行うことができました。

(2) 討論の中で使用するデータは教師が提示する

従来の討論学習では学習問題が提示された後に、ブレインストーミングを行い、メリット・デメリットを考え出します。そして、膨大な資料の中から自分の意見を補強するデータを見付け出したり、反論に活用できるデータを探したりしていました。

しかし、このような方法では、限られた時間内で学習効果を高めることは困難でもありました。

そこで、資料10のように、本單元では「討論で使用するデータ」を教師側から一括して提示することにしました。このことで次のような効果があったと考えています。

データを検索する時間が節約され、データに基づく主張づくりが容易になった。

相手の主張を予想しやすくなり、反論の準備が効率よく行うことができた。

相手の主張を予想し、反論の準備をしておくことで、かみ合った討論ができるようになった。

審判役の子どもも、事前にデータの内容を把握しているため、双方の主張が成立するのか否かの判断がしやすくなった。

教師がデータを提示することによって、効率よくデータの活用に焦点を絞った学習ができると思われれます。

資料10 子どもに与えたデータの一部

データ6 ペリーが見た日本人の印象

読み書きできる人が多く、勉強熱心である、不思議に思ったことは質問したり、調べたりする。もし、日本人が西洋の文明をきちんと学べば、アメリカのすごいライバルになるであろう。

データ7 イギリスが中国でしたこと

中国がアヘンの輸入を禁止すると、イギリスは軍隊を出して戦争をしかけました。イギリスは圧倒的な力を持っており、中国はだんだんと支配されていきました。

データ9 イギリスの工業発展

イギリスでは新しい発明があいつぎ、工場もどんどん大きくなっています。機械や鉄もどんどん生産され、1770年から1840年の間に、生産力は27倍になりました。イギリスは世界一の工業国になったのです。

データ13 ロシアは対馬を基地にしようとした

1861年に、ロシアの船が対馬に上陸して、勝手に大砲を持ち込んで、基地をつくらうとしました。

(3) 討論の途中で、自分たちの考えを吟味する場面を設定した

社会科学習の中で行われる討論は、テーマについて賛否両面からの主張や反論、再反論の後に、最終的な判断や判定が組み込まれていました。子どもの発言の中で明らかな間違いや誤解があった場合は、教師が適宜指導していくことが多かったようです。どのようなタイミングで指導するかは教師の状況判断に任せられるのです。途中で指導すべきときに、指導を行わないで、討論の内容が不鮮明なままに最終的な判断をさせることもあったのではないのでしょうか。これまでの社会科討論を振り返るとき、いわゆる「活動あって、指導なし」という状態もあったことに気付きます。

そこで、ここでは、1単位時間の討論を「第1ラウンド 外国からの圧力にどのように対応していくのか」「第2ラウンド 不安定な国内情勢にどう対応していくのか」の2つに分けて行いました。第1ラウンドと第2ラウンドとの間に、主張を吟味する時間を設けたのです。この時間を活用して、教師は双方の主張がどのような内容であったか、さらにはどのデータを活用していたのかを説明することが容易となり、議論の内容を従来より正確に把握させることができました。

特に、審判役の子どもにとっての効果は大きいものがありました。討論終了後の判定スピーチに

顕著に表れています。判定スピーチの中で子どもは、開国派、鎖国派双方の意見をよくとらえ、両者のメリット・デメリットを的確に評価して優劣を決定しようとしていました（資料11）。討論を「第1ラウンド」「第2ラウンド」の内容ごとに区切る方法は議論の内容を把握させる上で有効であると考えています。

(4) 論の優劣を判断する第三者の役割と討論者の役割を経験する

今回の討論では、開国派・鎖国派として討論するだけではなく、他のグループが討論しているときには第三者として討論を評価する役を経験させるようにしました。そうすることで、議論を客観的に振り返ることができると考えました。

つまり、双方の議論を聞いて、結論はどのようなことなのか、その結論を述べるために用いているデータはどれなのか、結論とデータの結び付きは妥当性があるのかなどをとらえさせる際に有効であったと考えています。子ども自身が討論者であった場合には、なかなか討論の内容を客観的に振り返ることは難しいようです。第三者の立場に立つことで議論を冷静に振り返ることが可能になります。リブレイス型の討論授業の大きな目的は、ここにあります。

発言者自身の意識も変わります。なぜなら、自分の主張する相手が第三者のグループになるからです。討論している相手は絶対に自分たちの意見には賛同しません。説得すべき対象は第三者です。このように目的意識がはっきりするので子どもの意欲も向上すると考えています。

発言者自身の意識も変わります。なぜなら、自分の主張する相手が第三者のグループになるからです。討論している相手は絶対に自分たちの意見には賛同しません。説得すべき対象は第三者です。このように目的意識がはっきりするので子どもの意欲も向上すると考えています。

3 社会的な思考・判断力の高まりの評価

本研究では、社会的な思考・判断力を以下のように定義しています。

社会的な事象について、資料に基づき自分なりに考えて判断する力

本単元では、黒船来航時の政策選択について考えさせていくものです。その際、子どもが開国を主張しても、鎖国を主張しても構いません。ここで大切なことは、子どもの主張がどのように成長しているのかを見取っていくことだからです。判断の主体は子どもです。教師の価値観を注入していくことは極力慎まなくてはなりません。

討論を経て子どもの考えがどのように広く、深くなっているのかを評価していくことが大切です。ただし、思考力・判断力そのものだけを取り出して評価することは不可能です。そこで、子どもの主張文（ここでは、「意思決定カード1及び2」）の記述内容を分析して、そこに書かれている内容を

資料11 判定者用ワークシート（ある児童が記入したもの）

- 1 全体的によかったところをほめる。
私は、今日ディベートを見て、どちらも納得できる意見でした。最後まで迷いました。
- 2 発表の仕方について述べる。
開国派は、（声も大きくて分かりやすかった）ので（ 13 ）点
鎖国派は、（意見に説得力があった）ので（ 15 ）点
で、発表の仕方は（ 開国派 ・ 鎖国派 ）が少しだけよかったようです。
とくによかったのは、（ ）さんです。
- 3 内容について述べる。
開国派の主張は、
(大きく残っている・大部分残っている・少し残っている・ほとんど残っていない)
鎖国派の主張は、
開国派の意見に負けずに、反論していました。
(大きく残っている・大部分残っている・少し残っている・ほとんど残っていない)
- 4 結論
今回の話し合いでは（ 開国派 ・ 鎖国派 ）の主張に納得できました。

手掛かりに、子どもの変容を見ていくこととします。

(1) 抽出児の変容について

まず、抽出児の変容について述べます(資料12)。このF児は、討論前は、データ集に記載されていた内容をそのままに、理由として挙げていました。その書き方も箇条書きで理由と理由との関連性が薄い単発的なものでした。しかし、討論を経てからは、「当時の日本人ならば」ということで、状況をよく把握した上で判断しています。また、討論の内容も引用して示すなど、以前より広く深く考えていることがうかがえ、視野が広まったと判断しています(図6)。

抽出児G児の主張文からは、討論前は、日本全体のことというよりも個人の感情によって判断していたことが読み取れます。討論後には討論の中で出てきた発言を引用して、理由を述べていますし、日本全体のメリットとデメリットを比較して判断していることが分かります。このように広い視野から判断することができるようになりました(図7)。

以上のように、討論の前後で、子どもの社会的思考、判断力は変化しています。子どもが考慮している範囲(視野の範囲)が広がっています。個人的な感情や個人的な利益・不利益のレベルから当時の国益について言及するレベルにまで高まっているのです。

資料12 F児の意思決定カード

意思決定カード2

(開国すべき ・ 鎖国を続けるべき)

理由

この前の討論で、開国すると世界の文明が学べる、日本が困ったときアメリカから助けってもらえるというメリットがあることが分かった。鎖国を続けていく場合、日本は世界から遅れていくと思う。日本国内でも伊能忠敬の地図のように、すぐれた物を作り上げていたかもしれないが、それ以上に他の国ではすごい物を作っていた。このようなことから、私は、当時の日本は開国した方がいいと思う。当時の日本は、世界の進んだ科学を知った方がいいと思う。

参考にしたデータなどがあつたら

データ番号
16

データから分かること
ペリーの贈り物には、海図などもあり、日本では日本国内しか調べていないが、アメリカは世界の海を調べた。

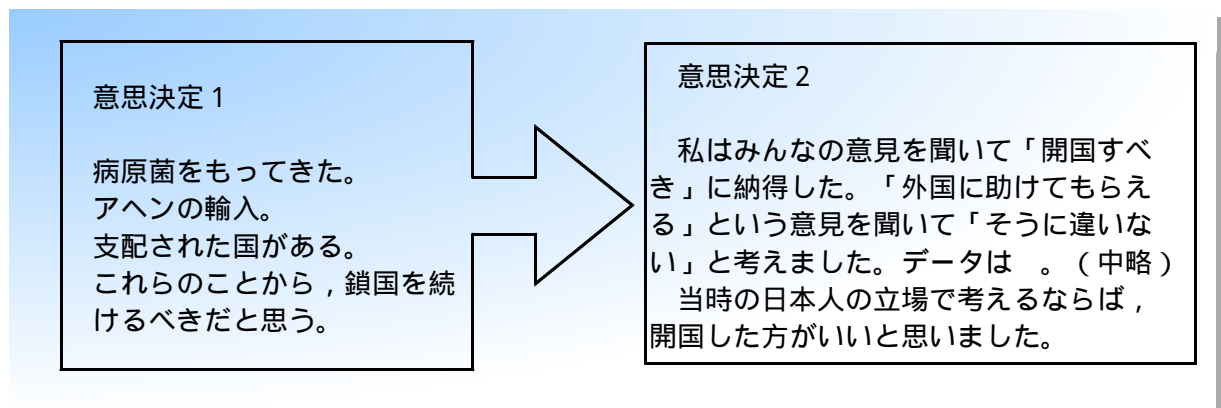


図6 抽出児Fの変容

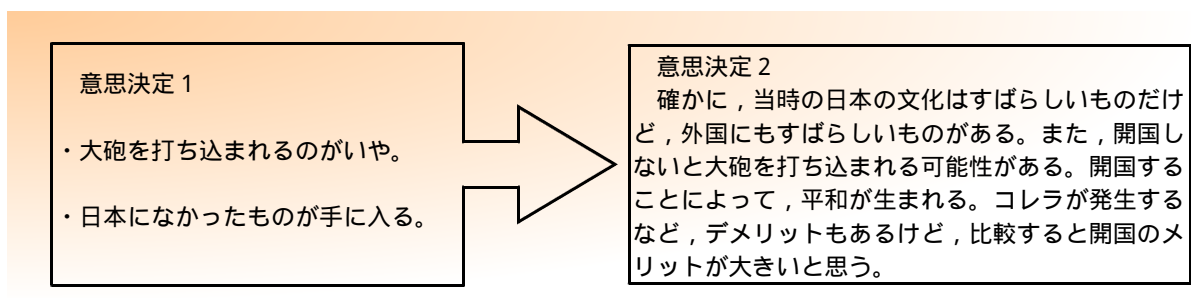


図7 抽出児Gの変容

(2) 全体的な変容について

全体的に見ても、次のような変容が見られました。

表2 討論前後の意思決定カードを図8の基準に照らして見取った結果

子ども	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
討論前	D	D	D	C	B	B	D	C	D	B	D	C	C	C	C	B	C	A	D	D	C	B
討論後	B	A	D	B	B	B	A	B	A	A	A	B	B	A	C	B	A	A	C		A	A

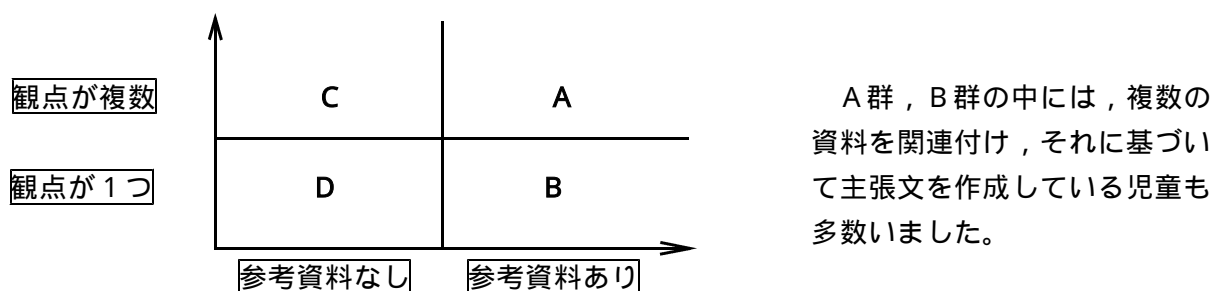


図8 主張分類の基準

討論前の子どもは、データを持っているにもかかわらず、データを活用しないで、あるいは一面的にとらえて判断している傾向があります。上の表を見てみると、CやDのレベルの子どもが多いことからそのことがうかがえます。ところが、討論後にはCやDの子どもが減り、AやBのレベルにまで上がっていることが分かります。

このようなことから、本研究で言う「社会的事象について、資料に基づき自分なりに考えて判断する力」が育成されてきたと言っているのではないのでしょうか。

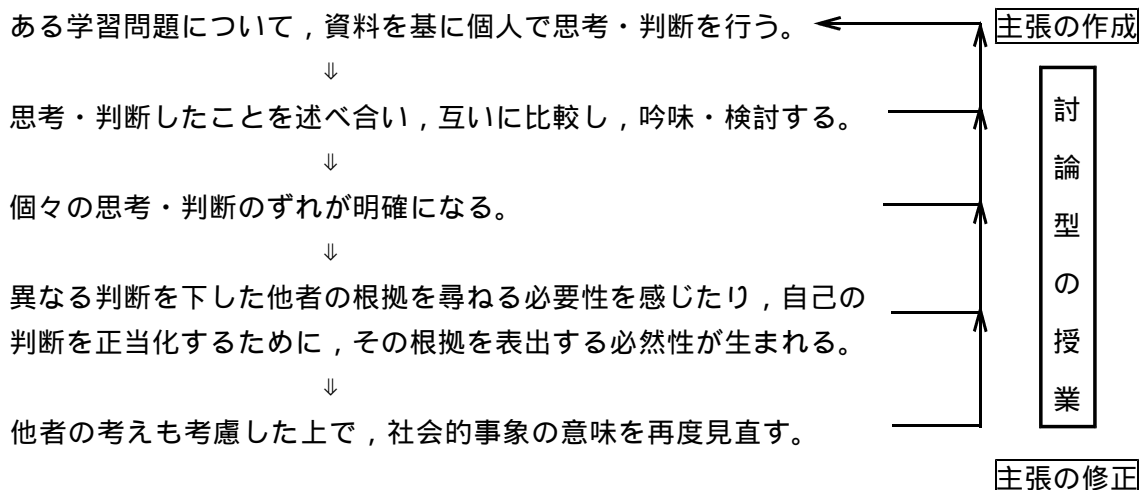
もちろん「社会科の中で討論を行えば、社会的な思考・判断力が育成される」ということではありません。データを基に判断せざるを得ない状況を作り出すことが大切です。ここでは、

社会的思考, 判断についての学習問題を二分して提示する
 討論の中で使用するデータは教師が提示する
 討論の途中で, 自分たちの考えを吟味する場面を設定する
 討論の優劣を判断する第三者の役割と討論者の役割を経験する

という手立てをとって、子どもの能力育成に焦点を当てたリプレイス型の討論授業づくりについて述べてきました。

第4章 討論型授業の必要性

今回の取組によって、討論型授業の目的と有効性を再認識することができました。それは、**社会的事象を関連付けて考える「思考の仕方」を身に付ける**ことです。単元あるいは1時間の授業の中に、発達段階に応じた討論の場を工夫して設定することで、社会的な思考力（付随して判断力）に高まりが見られました。それは、次のような学習サイクルを生み出すからだと考えます。



おわりに

本研究委員会では、平成16年度の学習状況調査の結果から、「社会的な思考・判断力」を高めるために、指導方法の工夫・改善の在り方を探ってきました。その中で、資料を基にして主張を作ったり他者ととも吟味・検討したりすることが、子どもの思考・判断力を高めるのに有効であると分かりました。実践授業で見られた高まりから察して、飛躍的な高まりは望めるものではなく、このような方法を取り入れた授業を繰り返し行うことによって、子どもの中に「社会的な思考・判断力」を培い、練り上げていく必要があります。

また、本研究では、2つのパターンの授業モデルと実践可能な単元例を紹介しました。社会科の指導方法改善のために、広くご活用くだされば幸いです。

《参考文献》

- ・ 文部省 『小学校学習指導要領解説 - 社会編 - 』 平成11年
- ・ 佐長 健司編著 『社会科でディベートする子どもを育てる』 1997年 明治図書
- ・ 佐長 健司 「社会科における思考力の評価」『指導と評価』 2004年12月号
日本図書文化協会
- ・ 安野 功 「考える力、表現する力を育て [生きる力] をはぐくむ社会科学学習指導の創造的展開」『初等教育資料』 平成17年6月号 東洋館出版社
- ・ 北 俊夫 「いま社会科で身につけさせたい学力」『社会科通信』 2005年1月号
東京書籍